

R40411 番町小 朝礼講話①

【児童への話】

今年は79人の1年生が加わり、全部で425人の番町の子がそろいました。嬉しいですね。151年目の新しい歴史を刻むスタートです。1年生のお世話は、6年生が中心に頑張ってくれますが、他の学年のお兄さんお姉さんも、1年生に優しく接してあげてください。

さて、今日は「あいさつ」についてお話します。

毎朝、門から入ってくる皆さんに、校長先生はあいさつをします。元気にあいさつをしてくれる人、丁寧におじぎをしてくれる人がとてもたくさんいて、番町の子はすばらしいです。これからも気持ちよく1日のスタートができるといいですね。

あいさつを漢字で書くと、「挨拶」です。それほど難しくはありませんが、両方とも、このあいさつという言葉でしか使われることがほとんどない、珍しい漢字です。この「挨」の漢字は、押すとか打つという意味です。「拶」の漢字は、近づくとか進むという意味です。合わせると、「押して近付いていく」という意味になります。

昔々、お寺のお坊さんたちが、互いに相手がどれくらいかしこいかを知るために質問と答えを繰り返すことを、「挨拶」という言葉で表現していました。挨拶は、「あなたはどのような人ですか？」と確かめて、互いに心を近付けていくためのものだったのです。ここから転じて、人と人が出会ったときに交わすものとして、「あいさつ」という言葉が使われるようになりました。

あいさつは、家族やお友だち、先生と毎日必ずするものです。そして、あいさつをすると、心が元気で明るくなり、気持ちよく生活できます。

あいさつの極意は、「あかるく いつも さきにつたえる」です。学級で、担任の先生と「あいさつ」について確認してください。そしてあいさつをしっかりと、仲良く元気に毎日を過ごしてくださいね。今日は「あいさつ」についてお話しました。

【本講話について】

先週の3日間を経て、もう子どもたちは新しい環境になじみ、楽しく生活しています。明るく礼儀正しい子がたくさんいる番町小はすばらしいと思います。

人間関係を構築する基本は「対話」です。本日は、そのきっかけとなる「あいさつ」についての内容にしました。あいさつされて嬉しくない人はいません。あいさつすることで人への関心が生まれ、互いに知ろうとすることで歩み寄り、良好な人間関係づくりの土台ができます。今後、べったりと依存する仲良しではなく、「適切な距離感をもった仲良し」について、子ども自身に考えさせていきます。